

独立行政法人国立美術館契約監視委員会（第2回） 議事概要

平成22年2月24日（水） 16:00～17:00

東京国立近代美術館4階会議室

出席委員

委員長 宝木範義 明星大学造形芸術学部教授
藤井宏昭 森アーツセンター理事長（欠席）
黒田亮子 独立行政法人国立美術館監事
鈴木 清 独立行政法人国立美術館監事、鈴木公認会計士事務所所長

概要

（→・・・美術館側説明 >・・・契約監視委員発言）

「随意計画等見直し計画」について

→ 競争性のない随意契約119件のうち、19件を競争性のある契約へ移行

内訳は、一般競争へ移行 4件

企画競争・公募へ移行 2件

平成20年度限りの契約 13件

> 特段意見なし。随意契約となっているものは真にやむを得ないと認められる。

→ 一者応札・一者応募は29件あり、公告期間を見直す案件が17件、平成20年度限りの契約が11件、新美術館のガス調達契約が指摘なしで1件

> 公告期間の延長だけで応札者が増えるのか、疑問が残る。

ガス調達など他に参加者が見込めないのであれば、随意契約にするべきである。

平成21年度契約事前点検結果（前回競争性のない随意契約）の状況ならびに点検について

→ 前回競争性のない随意契約であった案件のうち、前回の委員会以降に契約を行った、又は行う予定の契約の一覧で、前回の委員会で随意契約でやむを得ないとなったもの以外は一般競争に移行済みと移行手続き中のもの。

> 特段意見なし。

平成21年度契約事前点検結果（前回一者応札・一者応募）の状況ならびに点検について

→ 前回一者応札・一者応募であった案件のうち、前回の委員会以降に契約を行った、又は行う予定の契約の一覧で、公告期間を延長することにより競争性を高めている。

> 特段意見なし。

平成21年度契約事前点検結果（新規案件）の状況ならびに点検について

→ 前回の委員会開催後に新規で契約を行った、又は行う予定の契約一覧
入札参加資格の制限など問題がないものとする

> 問題なし